

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 105-8589  
 住 所 東京都港区芝3丁目2番8号  
 氏 名 オリックス自動車株式会社  
 代表取締役 上谷内 祐二

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	オリックス自動車株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区殿町2-9-14		
該当する事業者 の要	<input type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者(任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	K	不動産業、物品賃貸業
	中分類	70	物品賃貸業
主たる事業 の内容	自動車リース、レンタカー、カーシェアリング、中古車販売		
事業者の規模	<input type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量		k l
	<input checked="" type="checkbox"/> 自動車の台数	199	台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO <sub>2</sub>

(第2面)

計画期間及び報告年度	平成 28 年度 ～ 平成 30 年度 (報告年度 平成 30 年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第 2 号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第 2 号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第 2 号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第 2 号のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。  
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。  
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。  
4 ※印の欄は記入しないでください。  
5 氏名 (法人にあっては、その代表者) を記載し、押印することに代えて、本人 (法人にあっては、その代表者) が署名することができます。

2 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況 (第3号該当者等)

(1) 温室効果ガスの排出の量の状況 (排出係数固定)

ア 計画期間の温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
排出量	(実) 520 t-CO <sub>2</sub> (調) 520	(実) 480 t-CO <sub>2</sub> (調) 480	(実) 561 t-CO <sub>2</sub> (調) 561	(実) 674 t-CO <sub>2</sub> (調) 674	(実) 515 t-CO <sub>2</sub>
削減率		(実) 7.7 % (調) 7.7	(実) -7.9 % (調) -7.9	(実) -29.6 % (調) -29.6	(実) 1.0 %

イ 計画期間の温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値

原単位の活動量	走行距離		単位	t-CO <sub>2</sub> /km	
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度の値
排出原単位等の値	0.0003186	0.0002799	0.0002794	0.0002420	0.0003155
削減率		12.1 %	12.3 %	24.0 %	1.0 %

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況についての説明

第1年度	稼働台数は基準年度と比較して6台増加したが、ハイブリッド車が17台増加したことで燃費が良化したため温室効果ガス排出量は基準年度比較で7.7%削減した。年間走行距離は基準年度比で微増になったものの燃費改善効果によって、原単位の値は基準年度比で12.1%削減となった。
第2年度	稼働台数は基準年度と比較して15台増加し、ハイブリッド車は前年度と比較して10台増加した。走行距離が前年から17%増加したため温室効果ガス排出量は基準年度比較で7.9%増加した。燃費改善効果で原単位は基準年度から12.3%の削減となった。
第3年度	稼働台数は基準年度と比較して25台増加し、走行距離も大幅に増加した結果、排出量は674tと目標値から大幅に増加する結果となった。一方、原単位は低燃費車の導入効果で走行距離の伸びに比べ、燃費使用量の伸びが抑えられたため、目標値を大幅に過達する結果となった。

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況 (全社目標)

--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成するための措置の実施状況

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の実施状況

事業所等 (第 1 号、 第 2 号、 第 4 号該当者等)	計 画	
	第 1 年度	
	第 2 年度	
	第 3 年度	
自動車等 (第 3 号該当者等)	計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○エコドライブの実施（社用車の施策）</li> <li>○低燃費車の導入（社用車・レンタカーの施策）</li> </ul>
	第 1 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○エコドライブの実施（社用車の施策） テレマティクス利用により危険挙動や長時間アイドリング発生回数の多い運転者と少ない運転者を公表し、不良運転者には上司から指導を行う。</li> <li>○低燃費車の導入（社用車・レンタカーの施策） 更新時期が来た自動車から順次トップランナー基準達成車など燃費性能が高くCO2排出量の少ない車両を導入する。</li> </ul>
	第 2 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○エコドライブの実施（社用車の施策） テレマティクス利用により危険挙動や長時間アイドリング発生回数の多い運転者と少ない運転者を公表し、不良運転者には上司から指導を行う。</li> <li>○低燃費車の導入（社用車・レンタカーの施策） 更新時期が来た自動車から順次トップランナー基準達成車など燃費性能が高くCO2排出量の少ない車両を導入する。</li> </ul>
	第 3 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○エコドライブの実施（社用車の施策） テレマティクス利用により危険挙動や長時間アイドリング発生回数の多い運転者と少ない運転者を公表し、不良運転者には上司から指導を行う。</li> <li>○低燃費車の導入（社用車・レンタカーの施策） 更新時期が来た自動車から順次トップランナー基準達成車など燃費性能が高くCO2排出量の少ない車両を導入する。</li> </ul>



## 4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

計 画	なし
第1年度	なし
第2年度	なし
第3年度	なし

## 5 その他地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

計 画	なし
第1年度	なし
第2年度	なし
第3年度	なし

6 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績（排出係数反映）

(1) 事業者単位

ア 第1号、第2号、第4号該当者等

(実)		t-CO <sub>2</sub>
(調)		

イ 第3号該当者等

(実)	674	t-CO <sub>2</sub>
(調)	674	

(2) 事業所等单位（第1号、第2号該当者等）

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が1,500kl以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500kl以上1,500kl未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500kl未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400～500kl 未満	
300～400kl 未満	
200～300kl 未満	
100～200kl 未満	
100kl 未満	

(3) 事業所等单位（第4号該当者等）

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t以上（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t未満（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の数

事業所数	
------	--

## 7 自動車の使用状況一覧(第3号該当者等)

## (1) 車両の種別

		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
		台数	台数	台数	台数
総数		174 台	180 台	189 台	199 台
内訳	普通貨物自動車	44 台	55 台	64 台	50 台
	小型貨物自動車	48 台	48 台	44 台	55 台
	大型バス	0 台	0 台	0 台	0 台
	マイクロバス	0 台	0 台	0 台	0 台
	乗用自動車	64 台	70 台	72 台	85 台
	特種自動車	18 台	7 台	9 台	9 台

## (2) 燃料の種別

		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	最新年度
		台数	台数	台数	台数	比率
総数		174 台	180 台	189 台	199 台	100.0 %
内訳	電気自動車	3 台	1 台	1 台	1 台	0.5 %
	天然ガス自動車	0 台	0 台	0 台	0 台	- %
	メタノール自動車	0 台	0 台	0 台	0 台	- %
	ハイブリッド自動車	25 台	39 台	49 台	64 台	32.2 %
	プラグインハイブリッド自動車	0 台	0 台	0 台	0 台	- %
	燃料電池自動車	0 台	0 台	0 台	0 台	- %
	水素自動車	0 台	0 台	0 台	0 台	- %
	ガソリン自動車 (ハイブリッド除く)	52 台	42 台	33 台	47 台	23.6 %
	ディーゼル自動車 (ハイブリッド除く)	94 台	98 台	106 台	87 台	43.7 %
	LPGガス自動車	0 台	0 台	0 台	0 台	- %
	その他	0 台	0 台	0 台	0 台	- %
うち低燃費車* の台数	121 台	160 台	181 台	192 台	96.5 %	

\* 低燃費車とは、「エネルギーの使用の合理化に関する法律」に基づき定められた燃費基準(トップランナー基準)を早期達成している自動車をいう。